

第6回庄原市斎場再編整備検討委員会での確認事項等

1. 一定規模の面積を持った市有地の状況

庄原エリアで 5,000 m²以上の市有地となると、工業団地か川北町の篠堂地区が考えられる。

2. 工業団地の候補地としての可能性

用途として制限はないが、分譲の可能性がある。

3. 石塔池付近の候補地としての可能性

埋蔵文化財が存在する可能性が高い。また面積用件を満たさない。

4. 現地建替えの場合の用地取得の可能性

現地に隣接する県有地について、取得可能。

5. 現地建替えと新候補地でのコスト試算

別紙1のとおり。

6. 式場の有り無しについての試算

別紙1のとおり。

7. 都市計画区域との関係

別紙1のとおり。

8. 現庄原市斎場と県立広島大学・国営備北丘陵公園との関係

①県立広島大学

現庄原市斎場から 200m 以上の距離に位置し、特に影響なしと考えられる。

②国営備北丘陵公園

現庄原市斎場から 200m 以内の距離に位置し、管理者の意見を聴取した上で市が公衆衛生上問題なしとして判断すれば設置可能。

※関係法律：「墓地・埋葬等に関する法律」

9. 安芸高田市葬祭場の建設経緯と平面図

別紙2のとおり。

10. その他参考資料

民間式場と公営式場の料金比較、市内各地域の葬祭業者数

新庄原市斎場の建設候補地と概算工事費

種別		現地建替			新候補地						
		候補地1 現庄原市斎場 (隣接する県有地を購入し拡張)			候補地2 民有地			候補地3 市有地			
		数量	単価(千円)	金額(千円)	数量	単価(千円)	金額(千円)	数量	単価(千円)	金額(千円)	
用地買収費	小計	3,000m ²	10	30,000	5,000m ²	8	40,000	500m ²	8	4,000	
造成工事費	敷地造成	3,000m ²	5	15,000	5,000m ²	5	25,000	5,000m ²	5	25,000	
	給排水設備			30,000			30,000			30,000	
	小計			45,000			55,000			55,000	
建築工事費	建築本体(火葬棟)	678m ²	600	406,800	678m ²	600	406,800	678m ²	600	406,800	
	建築本体(待合棟)	357m ²	300	107,100	357m ²	300	107,100	357m ²	300	107,100	
	火葬炉(予備含む)	3	45,000	135,000	3	45,000	135,000	3	45,000	135,000	
	小計			648,900			648,900			648,900	
外構工事	駐車場工事	1,062m ²	10	10,620	1,062m ²	10	10,620	1,062m ²	10	10,620	
	構内道路工事	1,062m ²	20	21,240	1,062m ²	20	21,240	1,062m ²	20	21,240	
	進入路工事	219m	200	43,780	300m	300	90,000	35m	300	10,500	
	付帯施設工事	500m ²	15	7,500	500m ²	15	7,500	500m ²	15	7,500	
	電気設備工事			4,000			4,000			4,000	
	植栽工事	200m ²	8	1,600	200m ²	8	1,600	200m ²	8	1,600	
	小計			88,740			134,960			55,460	
設計管理委託料	小計	工事費の6%		47,000	工事費の6%		50,400	工事費の6%		45,600	
調査	環境調査			4,000			4,000			4,000	
	地質調査			3,000			3,000			3,000	
	小計			7,000			7,000			7,000	
用地・地形測量	小計			8,000			8,000			8,000	
既存施設解体	小計			44,000			44,000			44,000	
概算経費	式場なし (上記計算による)	合計額		918,640	合計額		988,260	合計額		867,960	
		(起債)		815,300	(起債)		880,800	(起債)		767,400	
		(一財)		103,340	(一財)		107,460	(一財)		100,560	
	小規模な式場を 整備した場合(※1)	合計額		947,440	合計額		1,017,060	合計額		896,760	
		(起債)		842,600	(起債)		908,100	(起債)		794,800	
		(一財)		104,840	(一財)		108,960	(一財)		101,960	
	大規模な式場を 整備した場合(※2)	合計額		1,214,600	合計額		1,254,120	合計額		1,133,920	
		(起債)		1,093,600	(起債)		1,155,200	(起債)		1,041,900	
		(一財)		121,000	(一財)		98,920	(一財)		92,020	
メリット		<ul style="list-style-type: none"> ・地元の合意が得られれば、市民の認知度が高く、現土地を有効活用できる。 ・道路網が整備されており、交通アクセスが良い。 ・周囲に住宅が少なく、山林に囲まれている静寂な環境。 ・隣接する県有地は、取得可能。 			<ul style="list-style-type: none"> ・庄原市の中心部に近い場所を確保できれば、各地からの移動距離が短くなる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・庄原市の中心部に近い場所を確保できれば、各地からの移動距離が短くなる。 ・市有地であるため、用地買収に係る経費がほとんどかからない。 			
デメリット		<ul style="list-style-type: none"> ・場所が市内の端に位置するため、市内各地域からの移動に時間がかかる場合が多い。 ・進入路が狭く、拡張の必要がある。 ・既存施設を利用しながら建替えを行うため、工事期間中は騒音や移動面で利用者に迷惑をかけることとなる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・他の候補地と比べて建設に係る経費が高くなりやすい。 ・用地取得と周辺住民への説明と合意形成に時間を要し、建設時期が遅れる可能性がある。 ・進入路を整備する必要がある。 			<ul style="list-style-type: none"> ・まとまった面積を持つ市有地が限られている。 ・用地取得と周辺住民への説明と合意形成に時間を要し、建設時期が遅れる可能性がある。 			
都市計画		都市計画区域内(※3)			都市計画区域内であれば対応が必要(※3)			都市計画区域外			

※1 式場の規模を20人相当(8m×6m)として2室整備した場合の試算。

※2 式場の規模を150人相当(17.4m×10m)として2室整備し、相応の駐車場を確保した場合の試算。

※3 都市計画で位置を決定するか、市町村都市計画審議会を経て許可を得る必要がある。

火葬棟の必要面積試算

区分	室数	面積(m ²)	面積試算の設定条件等
炉前ホール・ 告別室(告別ホー ル)	2	149	火葬炉1基の炉内台車スペースを2.5m ² とし、平均的に40人程度と予測する会葬者全員が遺体の火葬を見送ることのできる空間を確保する。本計画における必要火葬炉数は、当面は2基+1基(予備)で対応が可能と考えられる。また、プライベートな空間を確保する目的から2室設置するとして、次のように算定する。 $[2.5\text{m}^2 + (1.8\text{m}^2/\text{人} \times 40\text{人})] \times 2\text{室} = 149\text{m}^2$
収骨室	2	113	30人程度の会葬者が収骨すると想定し、また火葬・告別の時間が重なっても良いように2室設置し、次のように算定する。 $[2.5\text{m}^2 + (1.8\text{m}^2/\text{人} \times 30\text{人})] \times 2\text{室} = 113\text{m}^2$
火葬作業室	1	68	火葬炉2基+1基(予備)分の空間と冷却前室3基の設置できるスペースを確保し、さらに炉の運転管理とメンテナンスが容易に行うことのできる広さを確保し、次のように算定する。 ①炉及び冷却室前 (3基分 × 2.5m) × 6m = 45m ² ②作業室 (3基分 × 2.5m) × 3m = 22.5m ² 合計面積 = 67.5m ²
中央監視制御室	1	20	動力制御室、中央監視装置及び作業員の机等の設置に必要な面積を、次のように算定する。 $4\text{m} \times 5\text{m} = 20\text{m}^2$
事務室	1	12	受付や案内など窓口業務、日常の事務を行う部屋としての必要面積を、次のように算定する。 $3\text{m} \times 4\text{m} = 12\text{m}^2$
機械室等 (残灰処理室、電 気室、機械室)	1	140	必要な面積を次のように算定する。 ①残灰処理室 3m × 4m = 12m ² ②2階電気室(非常用発電機含む) 4m × 5m = 20m ² ③2階空調機械室 4.5m × 9m = 40.5m ² ④2階機械室 4.5m × 15m = 67.5m ² 合計面積 = 140m ²
職員休憩室・更衣 室	1	12	職員の休憩室(和室)、更衣室トイレの設置に必要な面積を、次のように算定する。 $3\text{m} \times 4\text{m} = 12\text{m}^2$
玄関ホール (エントランスホー ル)	1	72	火葬場のイメージを大きく左右することを考慮して、必要な空間スペースを算定する。 $1.8\text{m}^2/\text{人} \times 40\text{人} = 72\text{m}^2$
風除室	1	12	棺の運搬と会葬者の行き来するスペースを主要出入口に確保する。 $3\text{m} \times 4\text{m} = 12\text{m}^2$
倉庫・台車置場等	1	30	メンテナンス用具保管倉庫及び柩運搬車、収骨台車等の倉庫として、次のように算定する。 $5\text{m} \times 6\text{m} = 30\text{m}^2$
その他		50	通路等の空間スペースを算定する。
延べ床面積合計		678	

待合棟の必要面積試算

区分	室数	面積(m ²)	面積試算の設定条件等
待合ホール (ロビー)	1	72	会葬者は、全員が火葬開始から収骨まで施設内に残留するものと想定し、次のように算定する。 $1.8\text{m}^2/\text{人} \times 40\text{人} = 72\text{m}^2$
待合個室	2	164	遺族のなかには、特に悲しみが深く他人と顔を合わせたくない場合もあることが考えられ、またプライバシーの面からも、個室を設置することが望まれる。 本施設では火葬が2件重なることを予測し、2室を設置する。ただし、一日の最大火葬件数4件に対応できるよう2室を間仕切り、プライベートな空間を4室分確保できるようにする。更に横になって休むことのできるスペースを余分に確保し、次のように算定する。 $(34\text{m}^2 + 7\text{m}^2) \times 2\text{室} \times 2 = 164\text{m}^2$
湯沸室	2	20	湯沸室や食器戸棚を置くスペースを、待合室ごとに設置するための必要面積として、次のように算定する。 $(2.5\text{m} \times 4\text{m}) \times 2\text{室} = 20\text{m}^2$
便所・手洗い	1	36	身体障害者用を含めた便所と手洗いとしての必要な面積を、次のように算定する。 $(6\text{m} \times 6\text{m}) \times 1\text{室} = 36\text{m}^2$
多目的ルーム	2	40	高齢者や乳幼児等が利用することを踏まえて、休憩や授乳などに使うことのできるスペースを確保する。また、葬儀業者及び清掃業者等の控室、来客応対等に使用する会議室など、多目的な用途としても使用可能とする。こうした多目的ルームを2室設置する必要面積を、次のように算定する。 $4\text{m} \times 5\text{m} \times 2\text{室} = 40\text{m}^2$
式場	2	96	遺族や親戚による小規模な葬儀(20名程度)として使うことのできるスペースを確保する。会葬者全員が見送ることのできる空間とし、祭壇の設置等ゆとりを持って次のように算定する。 $8\text{m} \times 6\text{m} \times 2\text{室} = 96\text{m}^2$
その他		25	通路等の空間スペースを算定する。
延べ床面積合計		453	

※小規模な式場を整備した場合

施設イメージ図（案） ※小規模な式場を整備した場合

●火葬棟(鉄筋コンクリート一部2階建て)

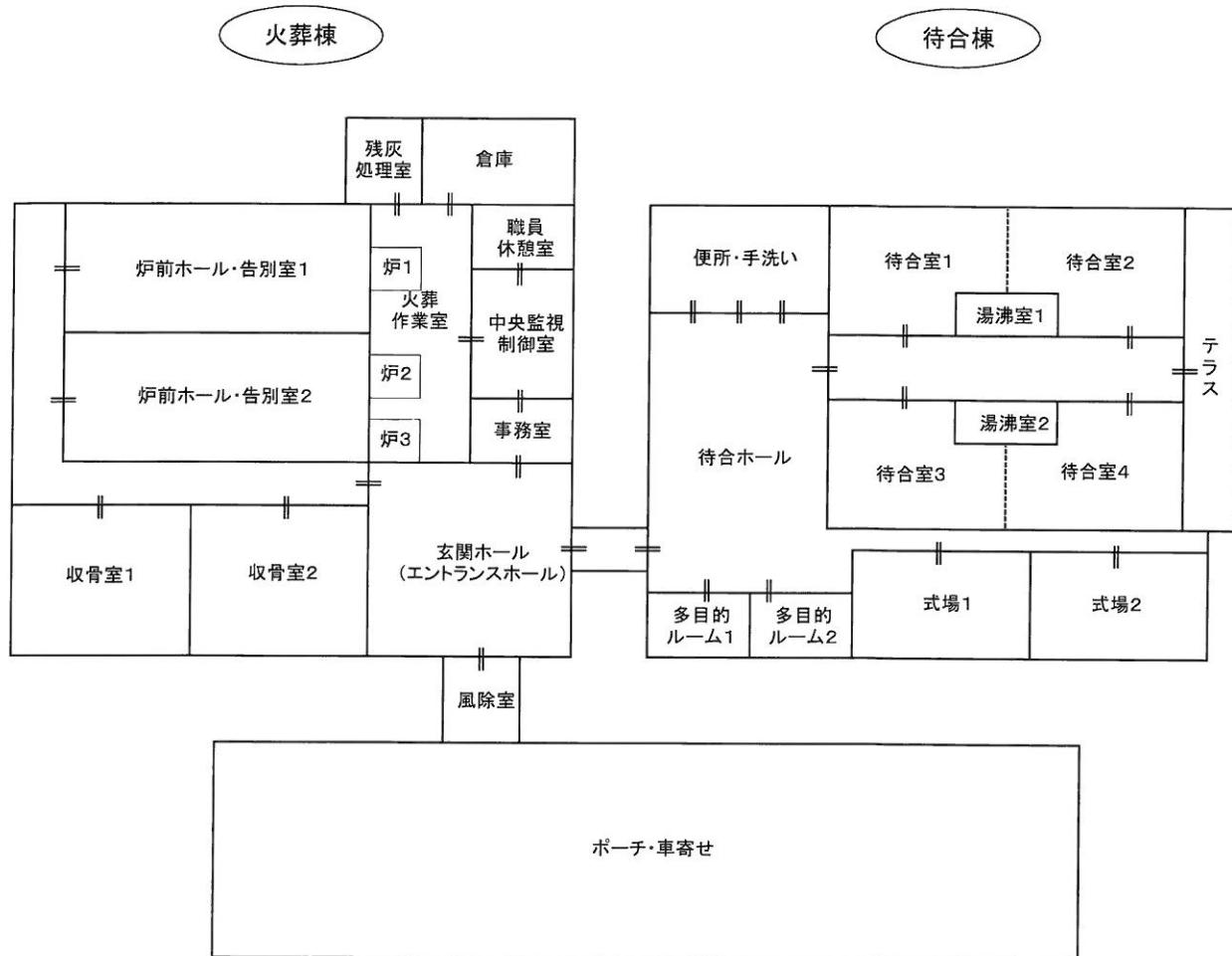
1階 538m^2

2階 140m^2

●待合棟(木造)

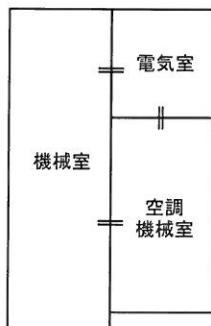
1階 453m^2

1階



2階

火葬棟



安芸高田市葬祭場整備状況

- ・平成 18 年度に葬斎場建設基本計画策定。
- ・既存の 4 施設はいずれも築 30 年程度を経過していることから、新葬祭場を市内 1 箇所に集約し、供用開始にあわせて 4 施設を閉鎖する方針。
- ・新葬祭場は、旧焼却施設のあった市有地の場所として市の方針を固め、平成 18 年から平成 23 年にかけて近隣住民への理解を求め、合意を得た。
- ・平成 25 年 2 月工事完成、4 月供用開始。
- ・市内に民間の葬祭業者が 2 社（式場持ち）あり、業者との協議によって公営の式場を整備することとした。

新葬祭場概要

- ◇所在地：安芸高田市吉田町多治比 2914 番地 2
- ◇敷地面積 13,154.72 m² 延べ床面積 2,328.40 m²
- ◇鉄筋コンクリート造小屋組一部木造 2 階建
- ◇火葬炉数 3 基、その他炉 1 基、動物炉 1 基
一日最大 6 件の火葬に対応が可能
- ◇炉前お別れ室 3 室、待合室 2 室、式場 1 室 ほか
待合機能を持つ部屋は、待合室 2 室と式場内の遺族控室 1 室により同時に 3 家への対応が可能。式場の利用は、一日 1 件を想定。
- ◇総事業費 1,514,000 千円